



唐風



— 中国短編小説集を詠む —

多谷 昇太

伯牛は開化の夫に妻を解く孔子の国にもばら
愛とは

天仙配あの世の契りはたふとしを氏素性かは
な裂きそ夫婦

な厭ひそ我は岩窟王(がんくつ) もはや鬼世
に背かれつつひとり生きしを

破鞋とか要らぬ姥とか伏しかぬ国是の仮面功
利の民に

四肢もたぬ乞食(こつじき) ながら円寂の睦
びくれしは君白拍子

この愚息西洋かぶれに服ふか小皇帝とはよく
も云ひたり

四川には豚と住まへる姥をりぬ産地なりとも
怪しのさまや

貧尽くしな泣きそ子豚賄へぬ汝(な)を紙銭
にと我ははかりしゑ

日の丸は憎むべしわれら羅刹かは誰か殺めむ
罪なき小豆

ピサならば斜塔とうもよろしきを傾く共產党
(とう)に住まふや唐人(からびと)



❖ 俳句(上句)より和歌をつくる ❖

(注…私の作った俳句に下句をつけて和歌としました)

多谷 昇太

日の本のいしずえなりき岩亀楼なんのかひなき
き丁髷刀

村境これより部落さらに我、徘徊、師とに非
人すればなり

塗りつけてなほ世に染まる青二才わが身で云
へば古い二才かや

ひまわりのすさまじきかな枯れ姿末路と云は
じ精いっぱい生きた

心引くドロンドロンの夢景色正夢ごとし
も夢で飛んだり

雁三羽駅近川にご到着帰りは列車とはかりて
来けむ

中瀬立つ灰色サギの孤高かなひとり旅なる車
窓より見ゆ

猖獗の蛇の館に入りカエル、これ私です、あ
ぶない人生

あの人^あは来てもゐぬかや混浴湯もういいでし
よう互ひ老ひたり

花景を黄金分割の人の列おもひたまへよ人ゐ
ぬ世界

日の本の狼男(ルガル)なれば咆哮(ごう) (ごう)
たかし巻かれ人らにやよ吼えなむや

(歌人、俳人のみなさん、どんどんジャンルを超えま
しょう！)

★ 本歌取り ★

(注：本歌取りとは古今東西の名歌を引いて作歌すること)

多谷 昇太

遊びをせんとや生まれけん戯れせんとや…鳥
濳や親となるため

白金も黄金も玉も何とても首なき身にはよす
がなりけり

※金のない者は首無き者に等しいとも云うので

名にし負はばいざ攻め来るか借金鳥あるかな
しかはその眼にも見よ

夜をこめてぬえの声音に脅すともわれは頼正
弦打ちすまで

東海の磯の小島のお白洲に禊がば蟹に指詰め
させてん

勇み肌熱き血潮に触れもせば振るひ立たずや
この道征かん

花の色は移りにけりな今ははたいよよ我が身
かいかにか散らむ

—以下二首 豊臣秀吉の歌影武者による有名な花二首より—

心ある風は吹きてそ吉野山花の本懐まつぶさ
に見む

年月を心に受けば吉野山花は散る散る悔いの
数ほど

をとめ子が袖ふる山にあくがれて来る老ひら
くの道まがひなむや

はたらかむはたらかむ尚いたしかぬ生活(く
らし)させぬとはかる馬頭あり

※いま現在私のまわり四部屋にヤクザどもがいて
睡眠妨害に励んでいる…